

【2024年卒 就職活動TOPIC】 3月時点でのインターンシップ等の参加割合は約9割

インターンシップ等の参加時期は卒業年次前年の「8月」の割合が最も高く、
初めての応募時期は卒業年次前年の「6月」が最も高い

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：北村 吉弘）のより良い就職・採用の在り方を追究するための研究機関・就職みらい研究所（所長：栗田 貴祥）は、就職みらい研究所学生調査モニターの大学生・大学院生を対象に「就職プロセス調査」を実施いたしました。このたび調査結果がまとまりましたので、一部を抜粋してご報告申し上げます。

学生が参加した件数全体のうち「1日以下」のプログラムは89.7%で、「5日以上」は1.9%であった



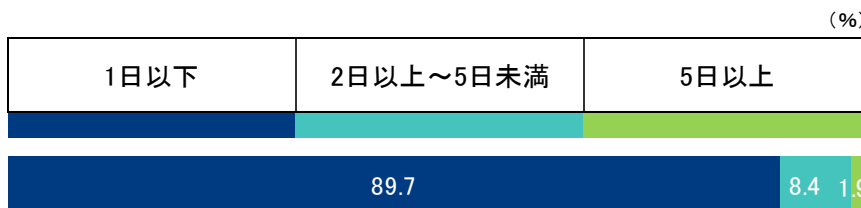
所長 栗田 貴祥

今回の調査では、2024年卒学生の「インターンシップ等の参加状況や参加後の意識など」についてレポートします。3月時点でインターンシップ等に参加した学生は93.6%と9割を超えました。参加時期の割合は、卒業年次前年の「8月」が63.1%と最も高く、卒業年次前年の「9月」が52.1%と次に高い結果となり、初めて応募した時期の割合は、卒業年次前年の「6月」が25.0%と最も高い結果となりました。応募したきっかけを見ると「業種理解を深めたいと考えたから」が78.5%と最も高くなっていますが、前年からの増加幅が最も大きかったのは「採用選考に有利に働くと考えたから」でした。学生によってはインターンシップ等と選考のつながりを意識している様子がうかがえますが、企業の2023年卒の採用実績データを見ると「採用数における自社インターンシップ等の参加者の割合」は27.0%であり※1、内定獲得のために必ずインターンシップ等に参加しなければいけないわけではないことが分かります。また、学生が参加したインターンシップ等の件数全体におけるプログラム期間の割合は、「1日以下」のプログラムが89.7%と大半を占め、「2日以上～5日未満」が8.4%、「5日以上」が1.9%でした。インターンシップ等に参加した後の意識について「その仕事に就く能力が自らに備わっているかどうかを見極めることができた」かを学生に聞いたところ、プログラム期間が長いほど、「あてはまる」と回答した割合が高くなりました。学生の皆さんは、自分らしさを生かせる仕事は何かという観点を持ちつつ、自身の状況や目的に合ったインターンシップ等を活用し、今後の進路について、検討を進めていきましょう。

※「インターンシップ等」という表記は1day仕事体験を含めて使用している
※1『就職白書2023』就職活動・採用活動の振り返りと今後の見通し

インターンシップ・1day仕事体験 参加件数全体におけるプログラム期間の割合

大学生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者のうち、インターンシップ・1day仕事体験経験者／数値回答）



本件に関する
お問い合わせ先

<https://www.recruit.co.jp/support/form/>

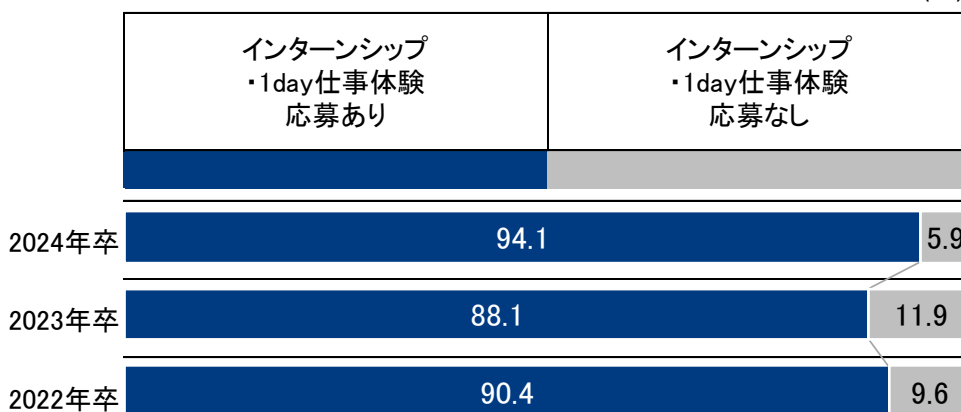
インターンシップ・1day仕事体験に応募・参加した学生は9割以上

- ・インターンシップ・1day仕事体験に応募した学生は、就職志望者かつ就職活動経験者のうち94.1%であった。
- ・インターンシップ・1day仕事体験に参加した学生は93.6%と、2023年卒、2022年卒と同様に高い水準であった。

インターンシップ・1day仕事体験の応募割合

大学生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者／単一回答）

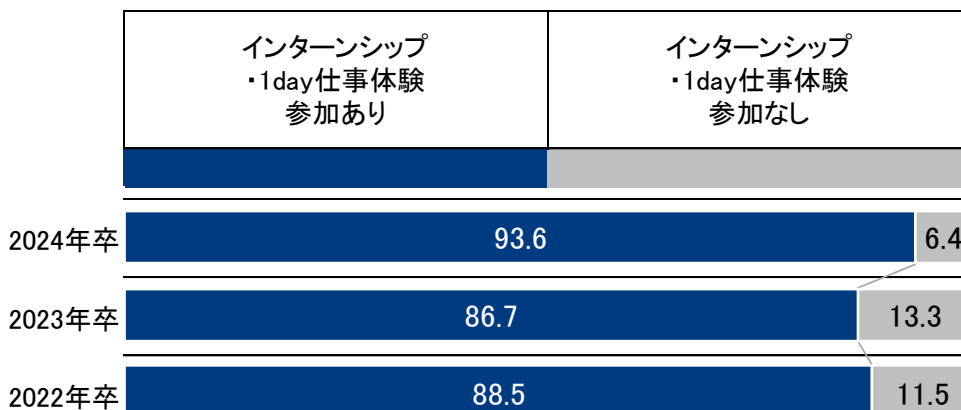
(%)



インターンシップ・1day仕事体験の参加割合

大学生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者／単一回答）

(%)



※2024年卒調査、2023年卒調査では「インターンシップ・1day仕事体験」について、
2022年卒調査では「インターンシップ（1日以内の仕事体験型プログラムを含む）」について聴取

対面のプログラムの経験割合・参加件数が2023年卒に比べて増加

- ・ Webのプログラムの経験割合は2023年卒と同水準だが、対面のプログラムの経験割合は増加した。
- ・ 平均参加社数は8.93社で、23年卒と同水準であった。形態別の参加件数を見ると、Webが7.73件と23年卒と同水準である一方、対面は3.12件と23年卒に比べ増加した。

インターンシップ・1day仕事体験の応募・参加状況

大学生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者／数値回答）

▽2024年卒	経験割合(%)	経験割合(%)		平均数(社)	参加件数(件)	
		Web (%)	対面 (%)		Web (件)	対面 (件)
応募	94.1	-	-	12.13	-	-
参加	93.6	87.3	70.0	8.93	7.73	3.12

▽2023年卒	経験割合(%)	経験割合(%)		平均数(社)	参加件数(件)	
		Web (%)	対面 (%)		Web (件)	対面 (件)
応募	88.1	-	-	11.81	-	-
参加	86.7	83.0	52.3	8.85	7.87	2.39

▽2022年卒	経験割合(%)	経験割合(%)		平均数(社)	参加件数(件)	
		Web (%)	対面 (%)		Web (件)	対面 (件)
応募	90.4	-	-	12.66	-	-
参加	88.5	83.8	60.6	8.56	7.43	2.63

※平均数の集計対象は、1社（件）以上参加した学生

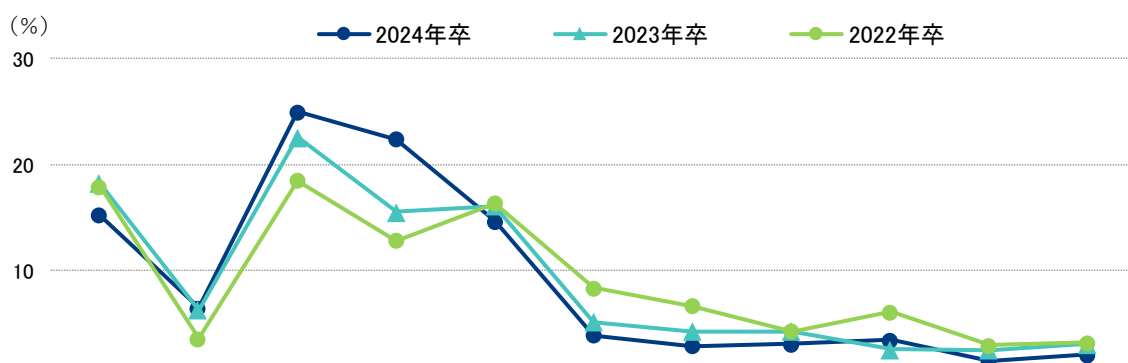
※2024年卒調査、2023年卒調査では「インターンシップ・1day仕事体験」について、
2022年卒調査では「インターンシップ（1日以内の仕事体験型プログラムを含む）」について聴取

初めて応募した時期が卒業年次前年「8月」までの割合が、2023年卒に比べて増加

- ・インターンシップ・1day仕事体験に初めて応募した時期は、卒業年次前年の「6月」が25.0%と最も高かった。
- ・卒業年次前年「8月」までに初めて応募した割合は83.6%と、2023年卒の78.6%を上回った。

インターンシップ・1day仕事体験に初めて応募した時期

大学生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者のうち、インターンシップ・1day仕事体験応募者／単一回答）



	卒業年次前年											8月までの 累計
	4月以前	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月以降	
2024年卒	15.2	6.4	25.0	22.4	14.6	3.8	2.8	3.0	3.4	1.4	2.0	83.6
2023年卒	18.2	6.2	22.6	15.5	16.1	5.1	4.2	4.2	2.5	2.4	3.0	78.6
2022年卒	17.9	3.5	18.5	12.8	16.3	8.3	6.6	4.2	6.0	2.9	3.1	69.0

※2024年卒調査、2023年卒調査では「インターンシップ・1day仕事体験」について、
2022年卒調査では「インターンシップ（1日以内の仕事体験型プログラムを含む）」について聴取

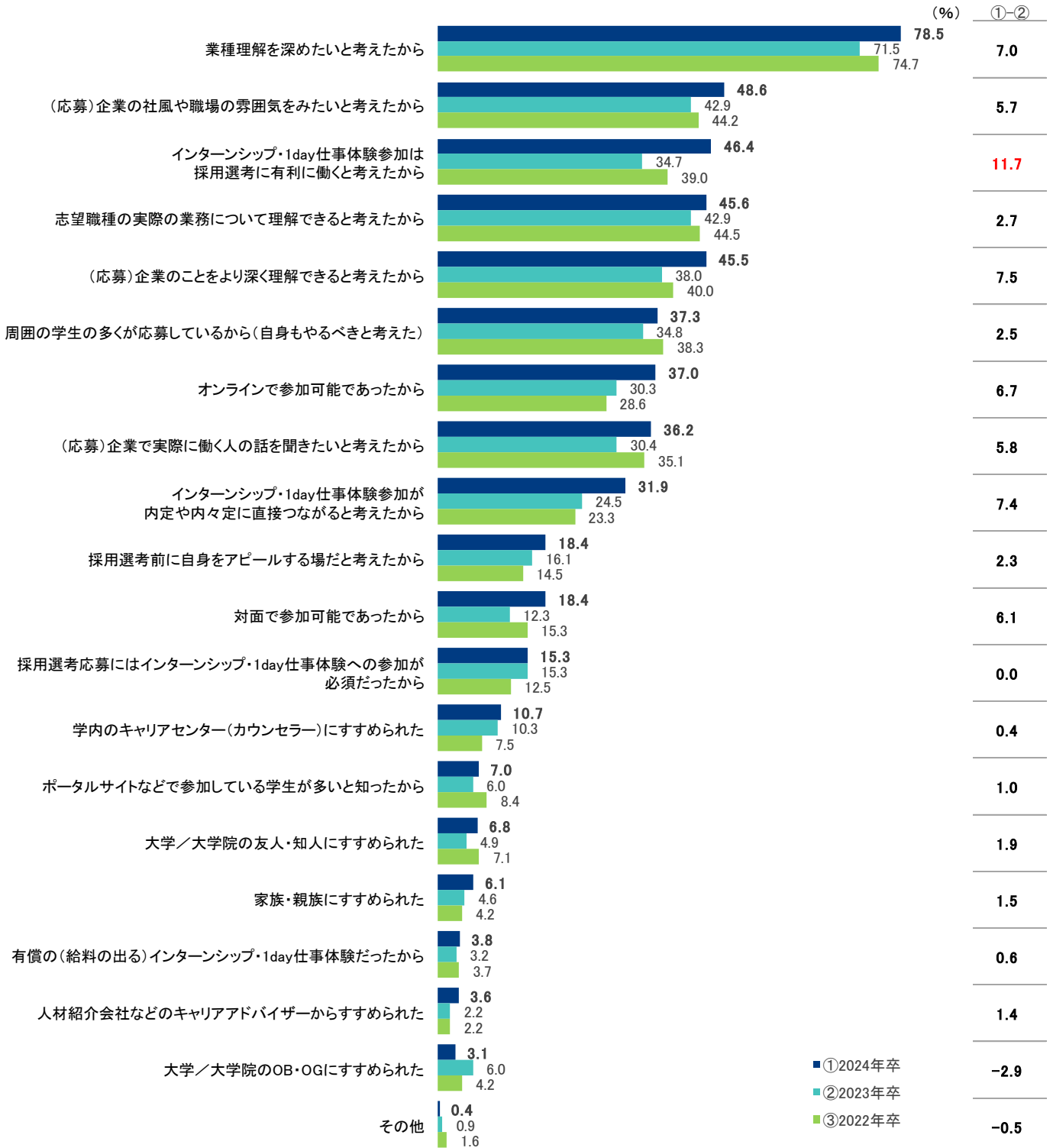
2023年卒から10ポイント以上増加した項目は「採用選考に有利に働くと考えたから」

・インターンシップ等に応募したきっかけについて、2024年卒は「業種理解を深めたいと考えたから」「(応募)企業の社風や職場の雰囲気をみたいと考えたから」「採用選考に有利に働くと考えたから」の順で高かった。

・23年卒に比べて10ポイント以上増加した項目は「採用選考に有利に働くと考えたから」であった。

インターンシップ・1day仕事体験に応募したきっかけ

大学生_全体 (就職志望者かつ就職活動経験者のうち、インターンシップ・1day仕事体験応募者/複数回答)



※2024年卒調査、2023年卒調査では「インターンシップ・1day仕事体験」について、2022年卒調査では「インターンシップ(1日以内の仕事体験型プログラムを含む)」について聴取

※10ポイント以上の差を赤字で表記

参考データ

⑥ 採用数における自社インターンシップ・
1day仕事体験参加者の割合

※2023年卒採用実施かつ2023年卒対象インターンシップ・
1day仕事体験実施企業 / 実数回答

	n	平均値
全体	636	27.0%

従業員規模別		
300人未満	146	28.4%
300~999人	242	27.6%
1000~4999人	200	24.8%
5000人以上 ※1	46	30.4%

地域別		
北海道・東北	50	21.6%
関東	245	25.5%
中部・東海	142	37.8%
関西	99	24.1%
中国・四国	58	28.3%
九州 ※1	42	27.2%

※1 サンプル数50未満のため参考値として掲載

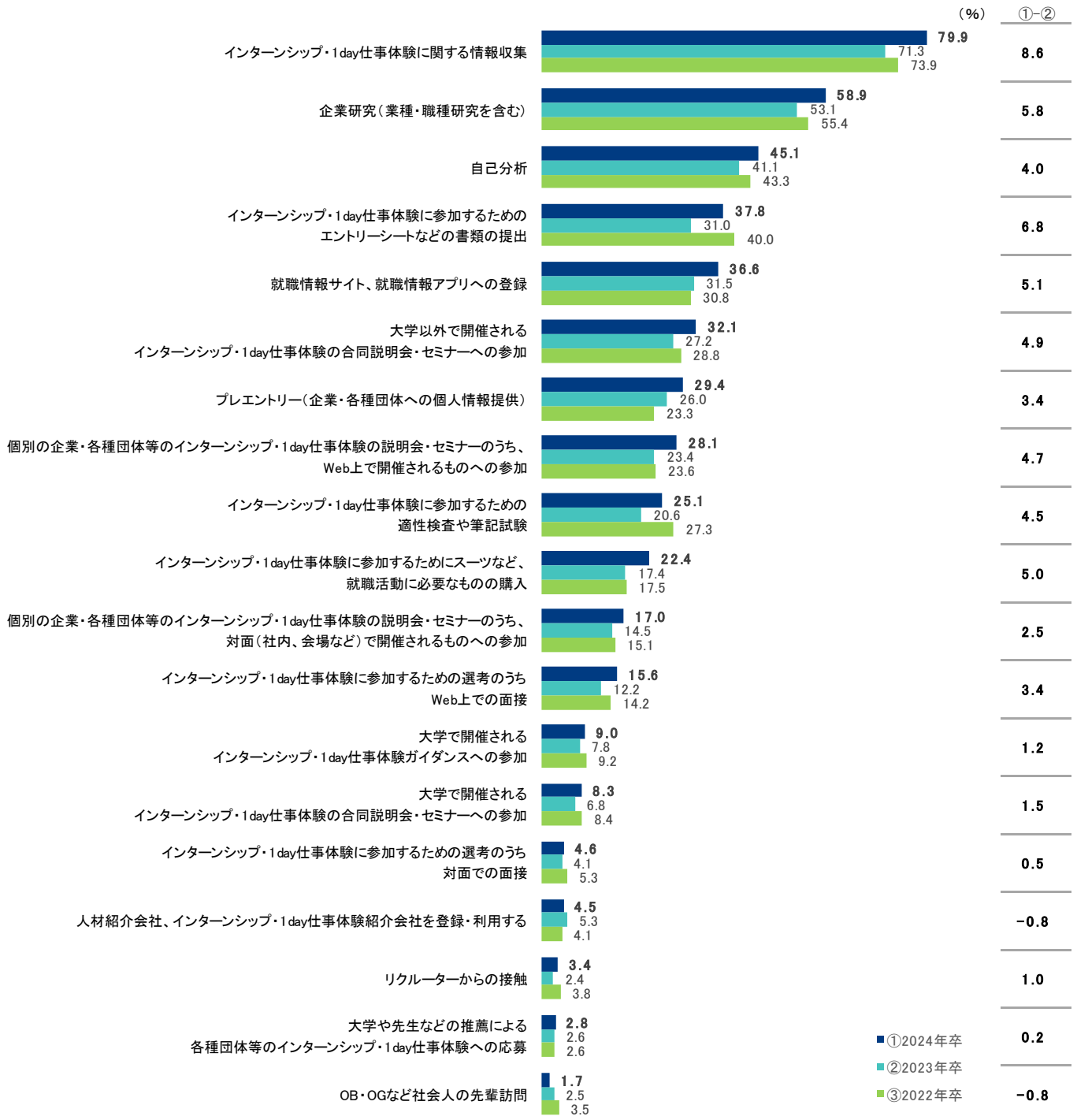
※ 出典『就職白書2023』就職活動・採用活動の振り返りと今後の見通し：企業調査期間 2022年12月2日～2023年1月11日

参加のための準備は、「情報収集」の割合が最も高い

・インターンシップ・1day仕事体験参加のために準備したことについて聞いたところ、2024年卒は「インターンシップ・1day仕事体験に関する情報収集」「企業研究（業種・職種研究を含む）」「自己分析」の順で高かった。

インターンシップ・1day仕事体験参加のための準備

大学生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者のうち、インターンシップ・1day仕事体験応募者／複数回答）



※「その他」「あてはまるものはない」を除く

※2024年卒調査、2023年卒調査では「インターンシップ・1day仕事体験」について、
2022年卒調査では「インターンシップ（1日以内の仕事体験型プログラムを含む）」について聴取

参加件数全体における「1日以下」の割合は約9割と大半を占める

・ インターンシップ・1day仕事体験の経験割合をプログラム期間別に見ると、「1日以下」が92.2%である一方、「2日以上～5日未満」は38.3%、「5日以上」は13.7%にとどまる。また、平均参加件数をプログラム期間別に見ると、「1日以下」は8.68件、「2日以上～5日未満」は1.95件、「5日以上」は1.25件であった。

- ・ インターンシップ・1day仕事体験参加件数全体のうち、「1日以下」が89.7%であった。
- ・ 参加したインターンシップ・1day仕事体験に就業体験が含まれていたか、学生の認識を聞いたところ、プログラム期間が長くなるほど、就業体験が含まれていたと回答した割合が高かった。

インターンシップ・1day仕事体験へのプログラム期間別の参加状況

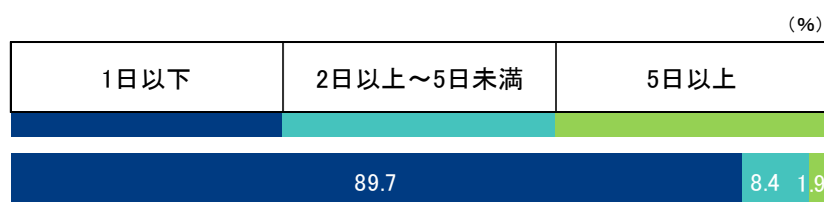
大学生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者／数値回答）

	経験割合(%)	平均数(件)
1日以下	92.2	8.68
2日以上～5日未満	38.3	1.95
5日以上	13.7	1.25

※平均数の集計対象は、1件以上参加した学生

インターンシップ・1day仕事体験 参加件数全体におけるプログラム期間の割合（再掲）

大学生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者のうち、インターンシップ・1day仕事体験経験者／数値回答）



インターンシップ・1day仕事体験の件数全体のうち就業体験が含まれていた割合

大学生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者のうち、インターンシップ・1day仕事体験経験者／数値回答）

(%)

1日以下	2日以上～5日未満	5日以上
28.8	47.0	68.2

「1日以下」と「5日以上」で差が大きい項目は「スキルの見極め」「単位取得」

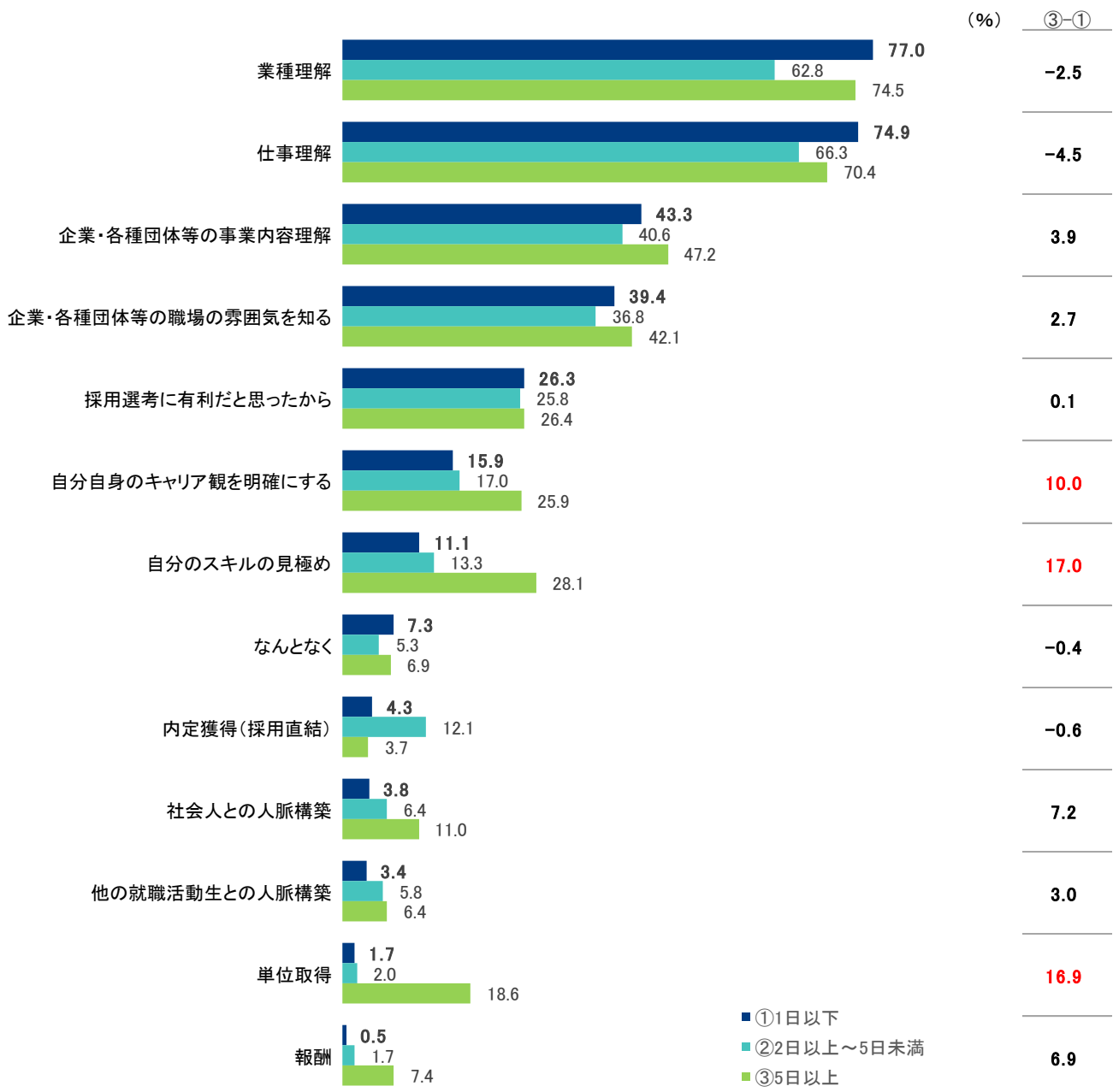
・インターンシップ・1day仕事体験参加の参加目的を聞いたところ、「業種理解」「仕事理解」はプログラム期間にかかわらず、いずれも6割以上であった。

・「1日以下」と「5日以上」を比べて10ポイント以上の差があった項目は「自分のスキルの見極め」「単位取得」「自分自身のキャリア観を明確にする」であった。

インターンシップ・1day仕事体験のプログラム期間別の参加目的

大学生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者のうち、インターンシップ・1day仕事体験経験者／

インターンシップ・1day仕事体験の参加企業について最大5社分をそれぞれ複数回答で聴取したものを合計）



※「その他」「特に意識していた目的はなかった」を除く

※10ポイント以上の差を赤字で表記

※「1日以下」の数値の大きい順に掲載

※集計軸（インターンシップ・1day仕事体験のプログラム期間）は、インターンシップ・1day仕事体験の参加企業について最大5社分をそれぞれ単一回答で聴取したものを合計

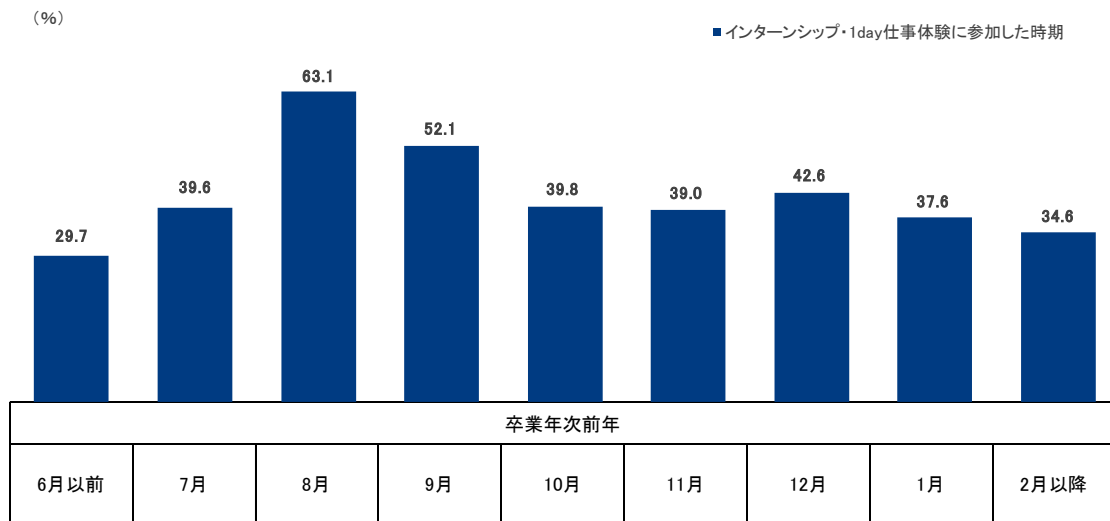
参加時期は「8月」の割合が最も高く「9月」が2番目に高い

・インターンシップ・1day仕事体験の参加時期を聞いたところ、卒業年次前年「8月」の割合が63.1%と最も高く、卒業年次前年「9月」が52.1%と2番目に高かった。

・インターンシップ・1day仕事体験のうち、5日以上プログラムに参加した時期は卒業年次前年「8月」の割合が45.4%と最も高く、卒業年次前年「9月」が35.2%と2番目に高かった。

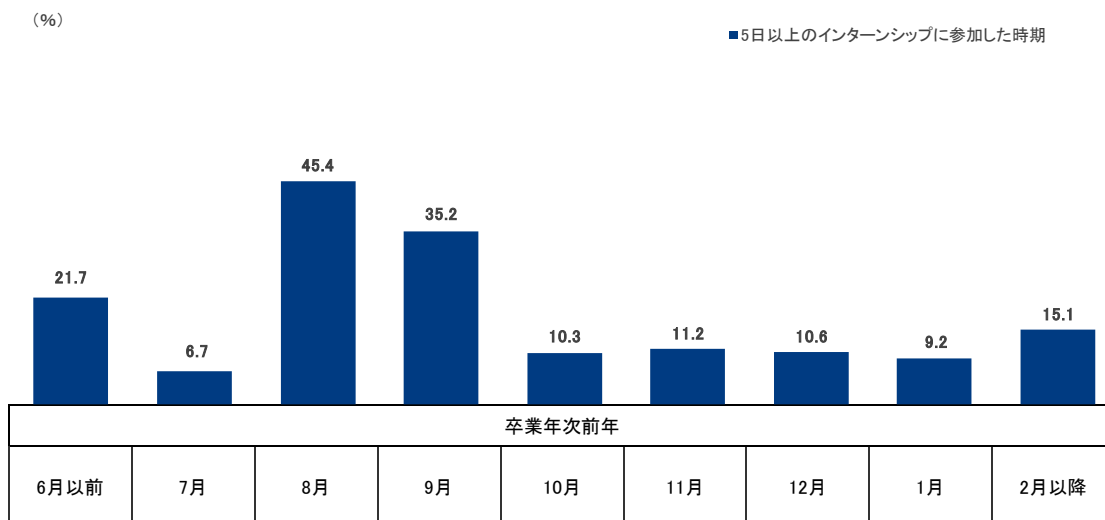
インターンシップ・1day仕事体験の参加時期

大学生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者のうち、インターンシップ・1day仕事体験経験者／複数回答）



5日以上インターンシップの参加時期

大学生_全体（就職志望者かつ就職活動経験者のうち、5日以上インターンシップ経験者／複数回答）



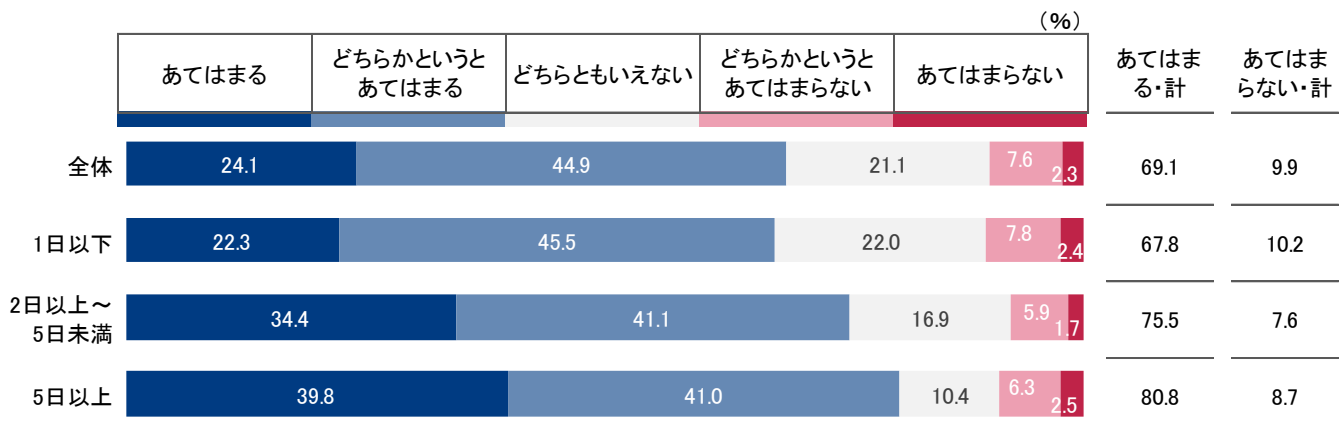
プログラム期間により「仕事に就く能力が備わっているか見極められた」かどうかに差

・参加したインターンシップ・1day仕事体験について、「その仕事に就く能力が自らに備わっているかどうかを見極めることができた」かを聞いたところ、「あてはまる」の割合は、「1日以下」は22.3%、「2日以上～5日未満」は34.4%、「5日以上」は39.8%で、プログラム期間が長いほど、「あてはまる」と回答した割合が高かった。

その仕事に就く能力が自らに備わっているかどうかを見極めることができた

(大学生・就職志望者かつ就職活動経験者のうち、インターンシップ・1day仕事体験経験者／

インターンシップ・1day仕事体験の参加企業について最大5社分をそれぞれ単一回答で聴取したものを合計)



※集計軸（インターンシップ・1day仕事体験のプログラム期間）は、インターンシップ・1day仕事体験の参加企業について最大5社分をそれぞれ単一回答で聴取したものを合計

調査概要

調査目的 | 大学生・大学院生における就職活動の実態を把握する

調査方法 | インターネット調査

集計方法 | 大学生については、性別、専攻、所属大学の設置主体を基に、実際の母集団の構成比に近づけるよう、文部科学省「学校基本調査」の数値を参照し、ウェイトバック集計を行っている

2024年卒：2023年3月18日時点

調査対象 | 2024年卒業予定の大学生および大学院生に対して、『リクナビ2024』（※）にて調査モニターを募集し、モニターに登録した学生3,219人（内訳：大学生2,476人/大学院生743人）

調査期間 | 2023年3月18日～3月23日

集計対象 | 大学生 858人/大学院生 316人

※リクナビ：株式会社リクルートが運営している、就職活動を支援するサイト
<https://job.rikunabi.com/2024/>

2023年卒：2022年3月18日時点

調査対象 | 2023年卒業予定の大学生および大学院生に対して、『リクナビ2023』にて調査モニターを募集し、モニターに登録した学生7,648人（内訳：大学生6,267人/大学院生1,381人）

調査期間 | 2022年3月18日～3月22日

集計対象 | 大学生 1,150人/大学院生 315人

2022年卒：2021年3月11日時点

調査対象 | 2022年卒業予定の大学生および大学院生に対して、『リクナビ2022』にて調査モニターを募集し、モニターに登録した学生5,663人（内訳：大学生4,658人/大学院生1,005人）

調査期間 | 2021年3月11日～3月15日

集計対象 | 大学生 1,215人/大学院生 360人

モニターの抽出条件

「卒業後の志望進路（志望する進路の全て）」の回答状況を基に、次の条件で対象を抽出

本調査対象 = 「就職意向者（就職志望者 + 志望進路未決定者）」（※モニター募集時）

本調査対象については、以下を除いた

- 就職志望者のうち「②公務員」「③教員」「④医師・歯科医師・看護師」のみ選択した者
- 就職以外「⑥起業」「⑦進学(国内)」「⑧進学(留学)」「⑨その他」のみ選択した者

調査結果を見る際の注意点

- 「内定率」は内定・内々定を含む。政府の要請における正式な内定日は10月1日以降である
- %を表示する際に小数点第2位で四捨五入しているため、%の合計が100%と一致しない場合がある
- 「前回差」「前年同月差」の単位は、「ポイント」
- 本資料での「前年」とは、「2023年卒」を示す

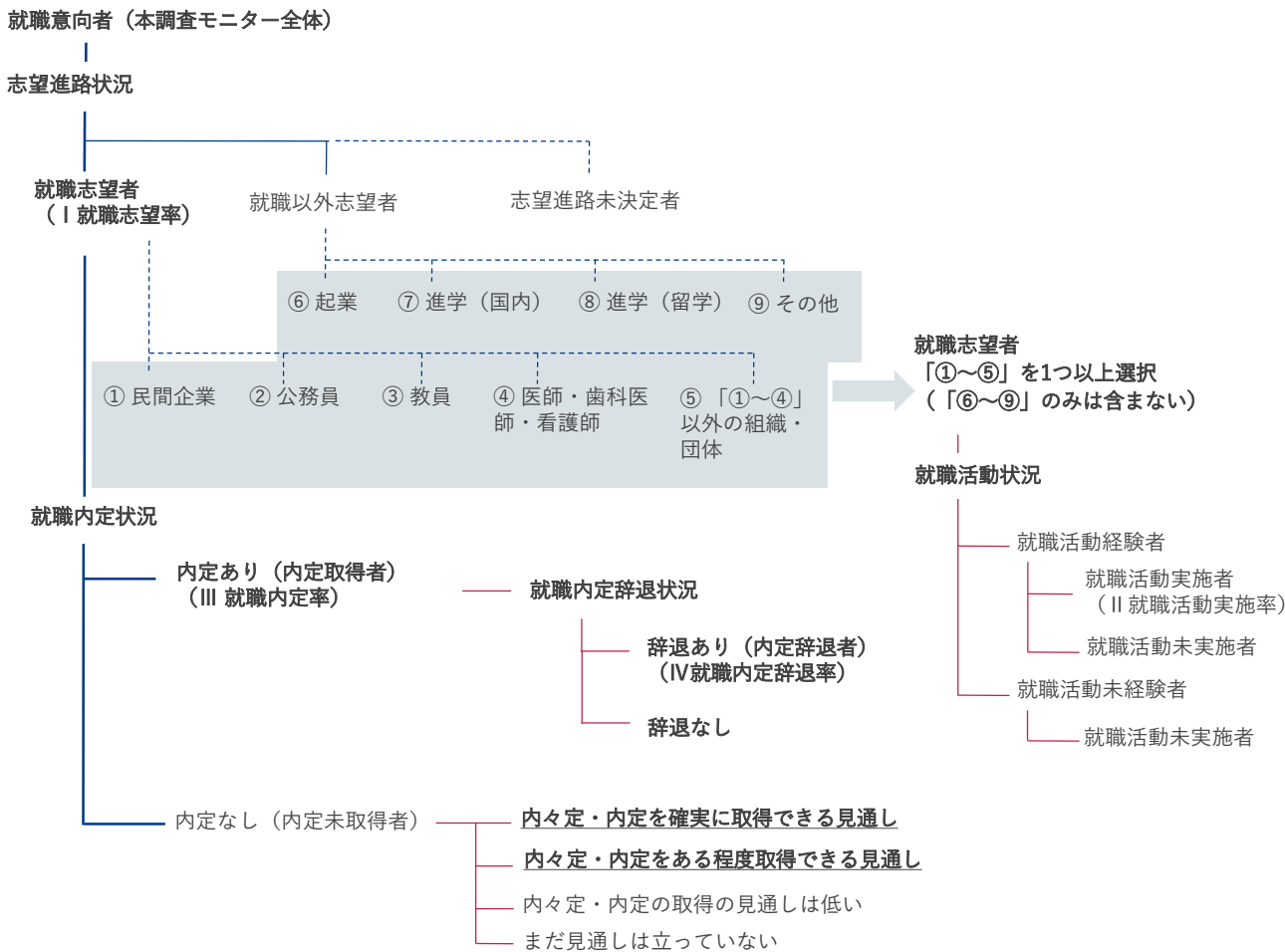
リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人ひとりのライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、マッチング&ソリューション、人材派遣の3事業を軸に、60を超える国・地域で事業を展開しています。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにはない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ：<https://recruit-holdings.com/ja/> リクルート：<https://www.recruit.co.jp/>

就職志望者から見た内定状況の構図



<各率の算出方法>

I 就職志望率	=	就職志望人数 ÷ 就職意向人数
II 就職活動実施率	=	就職活動実施人数 ÷ 就職志望人数
III 就職内定率	=	就職内定取得人数 ÷ 就職志望人数
IV 就職内定辞退率	=	就職内定辞退人数 ÷ 就職内定取得人数

<用語の定義>

- 就職意向者 = 当初 (本調査モニター募集時) の志望進路が「就職」および「未決定」者
- 就職志望者 = 当月、就職を志望している者
- 就職活動実施者 = 当月、就職活動を実施している者 (※)
- 就職活動経験者 = 当月までに就職活動の経験がある者
- 就職内定取得者 = 当月までに内定 (内々定) の取得経験がある者
- 就職内定未取得者 = 当月までに内定 (内々定) の取得経験がない者
- 進路確定者 = 当月、進路が確定している者
進路確定率 = 進路確定人数 ÷ 就職意向人数
- 就職内定辞退者 = 当月までに内定 (内々定) の辞退経験がある者

≪地域区分の内訳≫

- 関東 = 東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県
- 中部 = 静岡県、愛知県、岐阜県、山梨県、長野県、新潟県、富山県、石川県、福井県
- 近畿 = 京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、三重県、滋賀県
- その他地域 = 「関東」「中部」「近畿」以外の地域

※就職活動実施状況について、「している」「していない」の選択肢のうち、「している」と回答した者